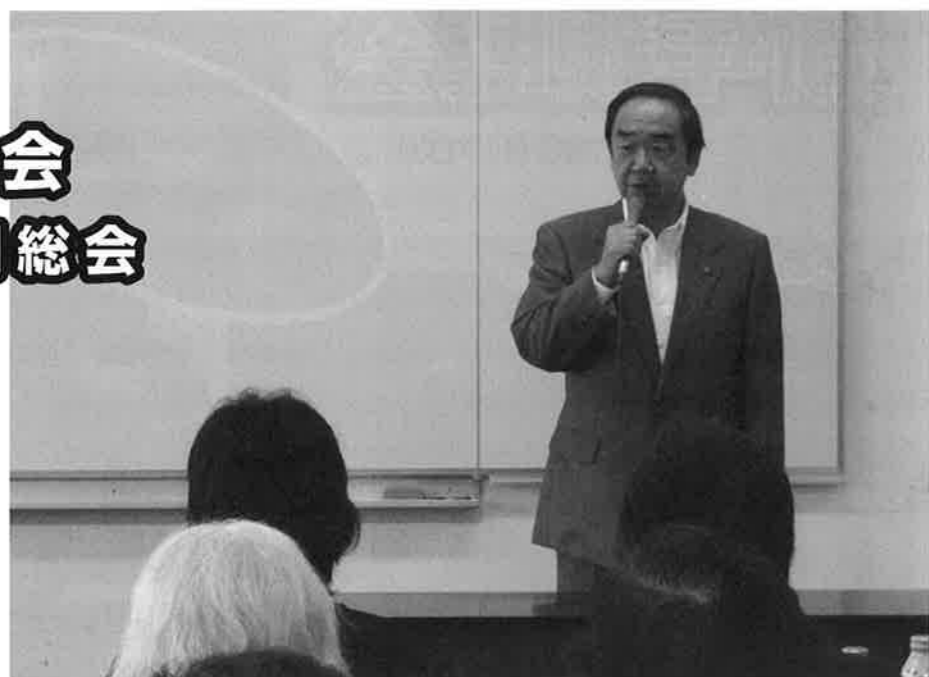


発行所
 苫小牧市若草町3丁目3-8
 苫小牧市民活動センター内
 一般社団法人 苫小牧風花の会事務局
 TEL 36-7800 FAX 82-8002
 E-mail: kazabana-toma@room.ocn.ne.jp
 URL http://www.tomaboshi-kazabana.or.jp/

**一般社団法人
 苫小牧風花の会
 平成27年度 定期総会**



二期目に向けて

理事長 甲谷 由美子

平成25年に一般社団法人としてスタートを切り26年度で当初の公益目的支出計画を終了する事ができました。書類は道庁の審査を通過し、現在内閣府の承認を待っている状況です。やっと、この段階までくる事が出来ました。これは、ひとえに会員、職員、行政、関係機関の皆様の支えがあった事の感謝致しております。

私共の会はおごる事無く、一歩一歩前進し、感謝の気持ちを持ち続ける事が大切だと常に思っております。

平成27年4月より生活困窮者自立支援法が施行。当会は独自で26年11月より会員向けに始めた学習塾を今年度4月より、ひとり親家庭の学習支援事業として苫小牧市より業務委託を受けることができました。また5月から生活困窮者家庭に向けての学習支援も実施することになりました。子ども達の勉強する環境、生活する環境を少しでも整えられるよう微力ながら支援できればと思っております。

4月29日、北海道母子寡婦福祉連合会創立60周年記念式典で理事長さんの挨拶の、「ほっこりあったかい会でありたい」と述べられたのが印象に残っております。

当会も、諸先輩が継承してくれた支え合い、感謝する心を忘れず「あったかい、ホッとする会」を心がけながら皆様とともに歩んでいきたいと思っております。

最後になりましたが6月の定期総会が無事終了した事を御報告致します。今後も皆様のご協力宜しくお願い致します。

風花の会によせて

苫小牧市健康子ども部長 木村 淳



私は、本年4月から現在の職に就き、お付き合いをさせていただいております。苫小牧風花の会の皆さんにおかれましては、母子寡婦の支援に繋がる様々な事業展開を通じ、関係する多くの方々の大きな支えになっているのと感じており、本市の福祉行政にとっても重要な役割を担っていただいていることに、心から感謝を申し上げます。

また、会の発足から64年という長い歴史の中には、多くの方々のご苦勞もあったかと思いますが、同じ悩みを持つ会員相互の努力により伝えられ、支え合い、そして、今日まで発展的な事業運営を継続されてきたことに、改めて敬意を表する次第でございます。

我が国は現在、少子化と超高齢化社会が同時に進むという、諸外国には例を見ないような状況が続いており、国の将来を危ぶむ人口減少時代へと突き進んでおります。こうした中、国においては、本年4月より「子ども・子育て支援新制度」をスタートさせましたが、本市においても144施策に及ぶ支援事業計画の展開により、子ども・子育てをめぐる様々な課題を解決し、すべての子どもが健やかに成長できる社会の実現と人口減少問題への克服を目指してまいりたいと考えております。

貴会におきましても、子ども・子育て支援事業の一つである、ひとり親家庭の学習支援に対する御協力をいただいております。これからも貴会の「わが幸は わが手で」という志を下に、支援が必要な方々へのサポートにより、さらに会員の輪を広げ、また、時代に即した事業の拡大に繋げていただきたいと願っておりますし、行政としても皆様方の身近な存在でありたいと考えておりますので、今後とも御協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、貴会の益々の発展と会員皆様のご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



七月四日(土)、母子家庭等就業・自立支援センター主催による胆振地区苫小牧セミナーが行われ、家庭問題情報センター主任研究員の諏訪享氏を講師に「養育費と面会交流」について研修を受けることが出来ました。

母子・父子自立支援員として、日々相談業務の中で関わりのある重要な部分のテーマでしたので、再確認のためにもとても勉強になりました。日本の離婚法制は先進国の中でも相当遅れていて、外国では有子離婚の場合も養育費の取決めや内容等について、裁判所など公的機関が関与するのが一般的だそうです。日本のように養育費の取決めがたとえ離婚届が受理される国はまずないとのこと。面会交流についても離婚後親子の関わりを一切絶つケースが目立つ。このような日本の特徴には多くの子どもたちが苦しんでいるのが現状で、それについては「離婚したら夫には会わせたくない。」という母親の声を多く耳にします。養育費も面会交流も親子関係を結ぶ大切なもの、離婚するのは親の勝手、親の事情です。子どもは、大人が想像する以上に不安を感じ大きなストレスを抱え込んでいます。親には親の苦しみや悲しみがあっても思いますが、子どもの利益を最優先に考えた解決ができるよう、又離婚後の親と子を繋ぐ手助けができるよう、助言やより良い支援を提議できる「相談員」として、今後も努めていきたいと思っております。

苫小牧セミナー
 「養育費と面会交流」に参加して

母子・父子自立支援員 菅原史子

**出前講座
 「タオル帽子作り」
 に参加して**

榎 祐子



浦田アイコさん (享年89才)

今は亡き母が、抗がん剤治療で髪の毛が抜けてしまった時期があり、市販の帽子では生地が素材・色・柄・大きさなど中々丁度良い物がありませんでした。そんな経験からタオル帽子がどんなものか知りたくて参加させていただきました。

同じ型紙で作ったのに、タオルの色や柄でそれぞれ違った個性が出て、どの作品も素敵な出来映えとなり、沢山の参加者と共に肌触りの良いタオル一枚から出来る帽子に感激してしまいました。

母にも作ってあげたかったなと感傷的な気持ちにもなりましたが、講師の方々が必要の多い病院に寄贈されているというお話を聞き、私でもお役に立つ事が出来るならと思い少しづつでも作り続けたいことを思いました。

好評につき再度講座の予定があるので、興味のある方は是非参加されたいかがでしょうか。



平成27-28年度 役員紹介

理事長	甲谷 由美子
副理事長	吉田 敏子
理事	坂本 嘉代子
理事	菅原 史子
理事	小野 信子
監事	井田 幸子
顧問	柴田 幸子

以上よろしくお願致します

浦田アイコ様は昭和56年「母子寡婦の会」に入会されまもなく初代事務局長に就任されました。平成7年5月より会長職を平成10年5月まで勤められ、特に高丘霊葬場や港まつりのピアガーデン事業にはご尽力され現在も継続させて頂いております。

ありし日のお姿を偲びつつ謹んでご冥福をお祈り致します。

合掌

行事予定

- 8月1日(土) 親子日帰り旅行(ライオンズを観光)
- 8月7日(金) 9日(日) 港まつりビアガーデン
- 9月2日(水) 3日(木) 高齢者福祉センター祭
- 9月5日(土) 6日(日) 第59回東北・北海道地区 母子寡婦福祉研修会
- 10月25日(日) 胆振管内母子寡婦福祉連絡協議会幹部研修会(室蘭)
- 未定 ひとり親家庭フェリー旅行(青森)
- 11月7日(土) 8日(日) 全国母子寡婦福祉研修大会(大阪)
- 平成28年1月16日(土) 新年親睦会
- (ホワイトパークサンシャイン)
- 平成29年 女性会議苫小牧開催決定

新入会員の知らせ

三十一名の仲間が増えました。※いつでも加入出来ます。ご連絡ください。事務局(36-7800)迄

編集後記

この夏は、ワールドカップなので、ジャパンで、日本中が盛り上がり、惜しくも、優勝には届きませんでした。が、なでしこの仲間を支え合う気持ち、また大きな力になって、来年のオリンピックでは、奇跡を起こしてもらいたいです。

広報部は、新メンバーになりました。これから紙面を通して、皆様と繋がってきたいと思います。

一般廃棄物産業廃棄物収集運搬業

「私たちは、自然が原点です」

北海道リサイクルセンター株式会社

代表取締役社長 伊部 廣明

本社/苫小牧市字植苗54の2
 TEL 58-2424 FAX 58-2689

分室/苫小牧市新開町4丁目4の12
 TEL 57-2711 FAX 57-4884

愛らんどベーカリー

本誌をお会計時ご提示で
パン全品10%OFF!!

※新開店のみ有効です。平成27年8月1日～9月末まで ※他券併用不可

苫小牧新開町4丁目7-17
 TEL(0144)52-5656

定休日 毎週日曜日
 AM9:00～PM6:00

スタッフ一同心よりお待ちしております。



「経済的格差が子どもの教育格差を生んではならない」との願いから、私自身NPO活動として学習塾を営んでいます。

10年前7人に1人の子どもが貧困と言われていましたが、今や6人に1人と言われるようになりました。日本はそもそも教育費の家庭負担が大きい国ですから、子どもへの教育投資にまで手が回らない家庭がどんどん増加しているのが現状です。

子どもたちの教育を受ける権利を保障する仕組みづくりは喫緊の課題です。国の関係省庁の動きは見られますが、まだ点でしかないようです。そうした中、風花の会の皆様がこの課題に向け動き出したことは大変素晴らしいことだと思います。

晴らしいこと
と思います。

昨年の9月、理事長さんからお声がけがあり、会員世帯の子ども達のための学習塾の立ち上げに携わらせて頂きました。

幸い、場所

今年度は生徒も増えたと共に、講師陣を倍増し6名としました。教員英の三教科を行うため時間は30分長〜9時半から12時までとしました。指導は教科担当制としました。

また、市総合福祉課の事業の委託も受けることとなり、プラスアルファの塾となりました。生徒はさらに増え55名となりました。部活の関係で全員が揃う事はありませんが、今後、中体連が一段落すると増えてくるのではないかと考えています。

も経費も生徒の募集も会の組織力でもっと進むとともに、私の塾の講師とノウハウ豊富な私塾の先生の協力を得ることができ、短期間の準備期間を経て11月にはスタートに至りました。

当初の生徒は15名ほどだったかと思えます。集まってきた子どもたちは意識が高く熱心でした。礼儀正しく優秀な子どもが多く驚きました。中3の子達の大半が市内の公立高校に進学しました。



これからは時代に即した魅力ある新たな事業に取り組みなければならぬと模索していた時、会員より塾へ通わせるには塾代が高くて通わせてあげることができないという声が聞こえてきました。

経済的事情が子供達の向学心や将来の夢・希望を失わせてしまつたとしても悲しく残念なことです。

学習支援事業として、私達がすべき事業ではと、何となく思っていました。旭川・帯広・岩見沢等々の既に学習支援事業を開始していた母子福祉連合会に問合せ、現場のお話を聞かせて頂きました。

これをきっかけに賛同し支えて下さる皆様と共に無我夢中でこの事業



子ども達に学ぶチャンス

TOMA塾 コーディネーター 藤沢 紀世安



この度は、大変素晴らしい賞を高橋はるみ知事より頂きとても嬉しく、今迄支えて下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

三番目の子が二歳の時に、身寄りのない苫小牧で母子家庭となり、女手一つで14年、配達の仕事と在宅介護の二つの仕事をかけもちしながら三人の子供を必死に育ててきました。

学校行事等は、参加できない事が多く親子でも寂しい思いをしました。その分、休日には出来る限り、子供達の時間を作り色々な所に出掛けて、楽しい思い出が沢山出来るように心掛けてきました。

しかし、娘達も反抗期には、親子喧嘩が耐えなく、こんなに頑張っているのに、どうして理解し合えないのかと、辛く涙する日も沢山ありました。

そんな子供達も、自分達で進路を見つけそれぞれの夢を叶え、長女は埼玉医大で看護師をして、次女はパティシエ

とまチヨップも応援してるヨ!!

苫小牧のおいしい水をたくさんの人に知ってもらいたいな〜

好評販売中!!

苫小牧のおいしい水とまチヨップ水

市役所3階にとまチヨップ水専用自動販売機があるよ!!

瓶込100円

親の声

- 1人でバスの乗降が出来なくなった。
- 成績が上位になった。

生徒の声

- 学校以外の友達が出来た。
- 学校では話さないけど、塾に来るとお喋りができる。
- 勉強のやり方が解るようになった。
- 苦手な科目が学校でも解るようになった。

を昨年の11月1日よりスタートさせる事が出来ました。

講師の先生は一人一人の生徒に寄り添いサポートして下さいます。そして生徒と接することで私達講師も教えて貰うことや再発見することがたくさんありますと話されました。

まだまだ改革の途中ですが、学習塾第一期生の3年生4名全員が公立高校に合格した報告を受けた喜びはひとしおで、後輩達に良い刺激を与えていって欲しいと思っています。

4月より学習支援事業は苫小牧市の委託事業となりました。ますます責任の重さを感じつつも、いつの日か果立っていった子供達が講師となり塾のボランティア活動に参加してくれることを夢み、頑張っていこうと思



にゅうがくおめでとう



お母さんありがとう



新入学お祝い会

平成27年3月1日(日) 新入学児童37名(参加人数120名)



お礼の言葉

さとうこまのりかさん
ふくおか さん
さとうまゆみさん
さとうまゆみさん

きょうは、たのしいお祝い
を、ひらいてくれて、
ありがとうございます。
がっこうへはいつたら、ほ
んを、よんだり、じを、か
いたり、たくさんべんきょうし
て、きゅうしよくをたくさん
たべて、おともだちとたくさ
んあそべる、一ねんせいにな
りたいです。

とまチヨップも応援してるヨ!!

苫小牧のおいしい水をたくさんの人に知ってもらいたいな〜

好評販売中!!

苫小牧のおいしい水とまチヨップ水

市役所3階にとまチヨップ水専用自動販売機があるよ!!

瓶込100円

おしせ 営業時間変更

教育福祉センター売店

今年の4月より、高齢者福祉センターは、指定管理がシールパー人材センターとなり、日曜祭日も利用する事が出来るようになりました。

そのため売店も、10時から13時の短時間ですが、営業する事になりました。

お時間がありましたら、ぜひお立ち下さい。

新年親睦会



新年親睦会

平成27年1月17日(土)



妖怪体操始まるよー!!!



優良母子表彰
北海道善行賞を受賞して

中嶋 晴美

この度は、大変素晴らしい賞を高橋はるみ知事より頂きとても嬉しく、今迄支えて下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

三番目の子が二歳の時に、身寄りのない苫小牧で母子家庭となり、女手一つで14年、配達の仕事と在宅介護の二つの仕事をかけもちしながら三人の子供を必死に育ててきました。

学校行事等は、参加できない事が多く親子でも寂しい思いをしました。その分、休日には出来る限り、子供達の時間を作り色々な所に出掛けて、楽しい思い出が沢山出来るように心掛けてきました。

しかし、娘達も反抗期には、親子喧嘩が耐えなく、こんなに頑張っているのに、どうして理解し合えないのかと、辛く涙する日も沢山ありました。

そんな子供達も、自分達で進路を見つけそれぞれの夢を叶え、長女は埼玉医大で看護師をして、次女はパティシエ

となり札幌で勤務しております。長男は、今年4月公立高校に合格し、将来の夢の救急救命士を目指して勉強とサッカーを頑張っておりです。私もこの春から転職し、病院の看護助手として一生懸命頑張っております。

今日あるのは、家族を支えて下さりました沢山の皆様のお陰でありこれからも感謝の気持ちを忘れず、日々努力を惜しまず、子供達と一生懸命頑張っていきたいと思っています。

この度は本当に有難うございました。